

25/3/11 名古屋市議会経済水道委員（名古屋城関係分）

名古屋市民オンブズマンによる、半自動文字起こしアプリによる文字起こし

みつなか美由紀（共産・緑区）：次に名古屋城の木造の関係についてお聞きをしたいと思いをします。

まずあの金シャチ横丁第2期整備についてお聞きしたいと思います。

基本、博物館基本計画の策定調査ということで2700万円が計上されておりますがまずこの博物館建設の目的とですねこの2700万円の内訳調査内容などをまずお聞きしたいと思います。お願いします。

名古屋城総合事務所兼第2期整備担当課長担当課長中島：はい金シャチ横丁第2期整備の博物館基本計画の策定調査に関する予算計上でございます。まず、名古屋城における博物館整備の構想自体につきましてその目的ですけれども、名古屋城の価値や魅力を、市民や来場者により深くしていただくため名古屋城に関する文化財や名古屋城に関連する様々な情報を発信するガイダンス機能を整備すること、また名古屋城ゆかりの資料を収集保管し、調査研究することにより貴重な文化資源を後世に確実に伝えていくと伝えていくこと、こうしたことを目的として掲げてございます。その展示内容といたしましては名古屋城の収蔵品等を活用しながら歴史や価値魅力を伝えるとともに日本の城郭の特徴を紹介するといったような手法に関する展示を想定をしておるところでございます。

令和7年度予算、2700万円計上させていただいておりますけれども、その内容でございますが、2点ございまして、一点目は、整備区域の発掘調査でございます。整備区域となる名古屋城正門側でございます金シャチ横丁義直ゾーン、この南側の区域内の一部につきまして試掘調査を実施したいと考えております。

2点目はですね基本計画策定に向けた調査といたしまして事業スキームの検討ですとか、他の施設の資料収集こういったことを実施する予定でございます。

みつなか美由紀（共産・緑区）：内訳と、調査内容を、目的についてお答えをいただきました。私がああの金シャチ横丁第2期整備の博物館ゾーンの整備基本計画基本構想というところを見てみますとですね、博物館ゾーンおよび名古屋城博物館に求められる機能役割ということで、天守閣は最近以来、名古屋城の歴史および構造について紹介する博物館として、重要文化財、本丸御殿障壁画を含む数多くのコレクションを展示公開して来た。

しかし天守木造復元に当たり、天守内は木造建築技術と美を紹介する空間とし、ケースによる展示空間を設けないという計画である。

このことを前提として、博物館ゾーンおよび名古屋城博物館に求められる機能役割を整理するというふうにあります。ということは今までの天守閣には博物館機能もあつただけけれども今度木造復元をした場合にはそういうものは展示しないと、そういうものが展示を、そういうものも含めて展示をする場としてこの博物館という。

ものを作るということのね、理由も一つここに大きく含まれるのではないかなというふう  
に思います。

やはり木造復元と一体的な整備という意味合いになっていると思いますがそのあたりはい  
かがででしょうか。

名古屋城総合事務所兼代理整備担当課長中島：はい博物館整備の構想におきましてはですね、  
委員ご指摘のございました木造復元事業と、こういったものに伴って今の現状の大天守閣の  
博物館機能を引き継ぐことを目的としているのかということですが、そのことのみので  
施設とは考えてございません。

博物館のですね展示内容を充実するという観点で必要な収蔵品ということではございま  
したら、既存の収蔵品品についても活動はしてまいりますけれどもあくまでも整備の目的は名古  
屋城にガイダンス機能を充実する必要があるという部分であると考えておりまして、名古屋  
城の歴史はもちろんのこと城郭というそのものについてもわかりやすく理解を深めていた  
だけというふうなせずに目指しているということではございます。

みつなか美由紀（共産・緑区）：私も、名古屋城の魅力発信ガイダンス機能とか、貯蔵庫に  
収納されている様々な貴重な資料展示公開、または大きな学習機能などを否定するものでは  
ありませんが、しかし、現天守閉鎖以前、現天守には博物館機能があり、また木造復元の、  
一体的に進めて進めていくということからいけば反対であるということ、申し上げて、博  
物館については以上です。

もう一点、天守閣木造についてよろしいですか。

木造、木造天守の復元事業はですね、ご周知の通り、令和5年6月の市民討論会で差別発言  
があり人権問題にまで発展し今あの事業は中断をしているという現状です。

それにもかかわらず、予算がいろいろついておりますけれども、まずこの予算のですね、概  
要をお聞きしたいと思います。

名古屋城総合事務所天守閣整備担当課長山田：今の天守閣整備事業の来年度予算の概要につ  
いてお尋ねをいただきました。主な事項といたしましては昇降技術開発といたしまして第  
三者機関への評定取得、それから試作機の製作を進めるとともにですね、実施設計としまし  
て昇降設備の設置に伴う建物本体側の構造補強に係る検討などを行う他、木材の製材としま  
して、先行手配しました木材を継続して適切に保管していくための費用、こういったものを  
計上しております。

また石垣保存対策といたしまして天守閣整備事業が予定されております範囲の大天守台、そ  
れから周辺石垣におきまして、特別史跡内の石垣面の劣化等に対して来場者の安全性の観点、  
そういったものを含めて優先順位を、順位を考慮しながら、石垣の維持保存を目的としまし  
た適切な措置を行うための費用などを計上させていただいております。

みつなか美由紀（共産・緑区）：局としての総括もまだ終わっておらず、事業は一旦止まっているという状況状態であると思いますが、今の説明を聞きますと、来年度の予算は、実施設計、木材の製材これずっとあるんですけども石垣保存、そして昇降技術の開発と様々な予算が計上されていますが、どのようなお考えなのか、考え方をお聞きしたいと思います。

名古屋城総合事務所天守閣整備担当課長山田：委員ご指摘の通りですね、天守閣整備事業は昨年度の市民討論会の差別発言を受けまして局の総括を終えるまでは、事業を前に進めないということにさせていただきます。

そのため令和7年度の予算といたしまして、継続させていただいております内容につきましては本事業を継続ですね特別史跡内の遺構保存の観点から、欠かすことができない必要最低限のものとして計上させていただいているという考えでございます。

みつなか美由紀（共産・緑区）：予算計上の考え方として、事業の継続や特別史跡内の遺構保存の観点から欠かすことのできない最低必要最低限のものであるということでありましてけれども、来年度の石垣保存対策については、石垣保存対策の工事として令和6年度からですね7年度への繰越額が1億7725万円ほどあると、それを合わせますと、かなりの予算を執行すると、来年度で執行するということが見込まれているということになりますが、本当に今、これが最低必要最低限のものなのかというところには非常に疑問を感じていますそこで来年度の来年度への繰越額も含めて本丸石垣保存対策の費用のうち分けとですね、内容のわかるものを資料として要求させていただきたいと思います。

名古屋城総合事務所天守閣整備担当課長山田：ただいま委員の方から、来年度の石垣保存対策、予算上の16ページいきますと石垣保存対策2496万3000円、こちらの方の内容と内訳、それからそれに合わせて繰越の予算も含めて資料として、よくいただきましたこちらの方を用意させていただきたいと思います。

みつなか美由紀（共産・緑区）：はい、よろしく願いいたします。

あとは資料を見ながらまた続き議論したいと思いますので、今日のところは以上です。